

学長インタビュー	P.1
専修大学学長 矢野 建一氏 「社会知性の開発」を目指し、 キャンパス整備、新学部創設を推進	
★ ニュースEye	P.5
文部科学省有識者会議、国立大学施設整備 次期5か年計画の中間報告案まとまる	
理事長インタビュー	P.6
トキワ松学園理事長 岡本 信明氏 小中高校・大学の一貫教育で、 創造性豊かで社会貢献のできる人材育成へ	
★大学ブランド Vol.2	P.8
キャンパスの研究資源が「大学ブランド商品」を生む	
★フロン排出抑制法が施行	P.12

Campus Management Report21

No.5

キャンパス マネジメント リポート 21

社会の要請に応える自らの改革

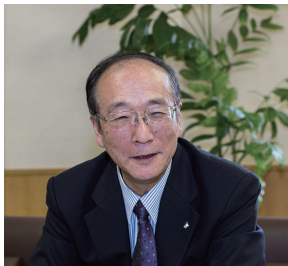
日本の大学は、国公立も含め、特に私立大学にとっては厳しい時代へ突入し、今まさに各大学は生き残り競争の中で戦っているといっても過言ではない。18歳人口は、最近の数年は横ばい状態であったが、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると約2年後の2018年頃から再び減少傾向を強め、2031年には99万人と100万人を下回るという。このことは、すなわち学生数の減少となり、大学経営の根幹に直撃するのである。

こうした状況の中で、各大学は少子化対策やグローバル化などを含めた改革に取り組んでおり、それぞれの特色や強みを活かすなどして、競争原理の中で自ら変わろうとする意識改革も進んできている。

今回の本誌では、人文社会科学系総合大学の専修大学の矢野建一学長と、小中高大の一貫教育を進めるトキワ松学園、岡本信明理事長に、両校の動向を聞いた。

学長インタビュー

専修大学学長 矢野 建一氏



「社会知性の開発」を目指し、 キャンパス整備、新学部創設を推進

今年で創立136年目を迎えた専修大学は、建学の精神を現代的に捉えなおした21世紀ビジョン「社会知性の開発」のもとに、大胆な教育制度改革、グローバル化に対応した人材の育成などに果敢に取り組む。さらに都心に取得した新校舎用地では、知の発信基地としての新学部も構想中。矢野学長に語ってもらった。

変革に向けた環境整備

東京オリンピック・パラリンピックが5年後に迫り、いよいよ現実味をおびてきました。過日も文部科学省の幹部の方が訪問され、有望なスポーツ選手の養成などを要望されました。本学にも全日本レベルで活躍する多くのスポーツ学生がおり、こうしたスポーツに情熱を燃やす学生への学

修支援を始めています。また、生田キャンパスには新体育館・体育寮が完成、伊勢原市にある本学の野球場は人工芝に生まれ変わり、その効果もあり今春、野球部が26年ぶりに東都大学野球1部リーグ戦で32回目の優勝。また、卓球部(女子)は全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)で15回目の優勝を果たしました。来るべき東京五輪での専大生の活躍に期待してくださいと文科省幹部の方には伝えました。

スポーツばかりではありません。大胆な教育システムの改革を含め、本学では建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉えなおした「社会知性の開発」を21世紀のビジョンに据えて、全学を挙げて変革に取り組んでいるところです。このことに関し、まず本学の歴史から説明したいと思います。

*「社会知性」とは・・・
「専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力」である。